

ハーモニー

Harmony

第 43 号 2007 年 6 月 7 日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒 448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目 次

第 15 回学術集会へのお誘い.....	2
第 15 回学術集会（北海道）のご案内－第 2 報－	2
トピックス	
・ 教員養成改革のきっかけになるか－教職大学院構想－.....	3
特別企画－私の県の「ここが特色」④	
* 総合教育センターを拠点に養護教諭の研修	
－若手養護教諭の育成を中心とした取組－.....	4
* 京都府立学校養護教諭研究会の活動.....	4
新・特別企画「私の実践と研究」リレー・レポート②	
養護教諭が行う特別支援教育.....	5
研究助成金研究の経過報告②	
* 保健学習の実践から見た養護活動.....	5
* 養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討	
－「養護概説」担当者による分析－.....	6
研究助成金研究（2007 年度）の選定報告.....	6
研究助成金研究の募集方法について.....	6
学会誌第 11 巻第 1 号投稿原稿の募集.....	7
「読者の声」募集	7
理事会等の活動報告	7
事務局より	8
編集後記.....	8

第15回 学術集会へのお誘い

学会長 津村 直子
(北海道教育大学)

第15回学術集会をはじめて北海道で開催することになりました。本会の設立の趣旨と14回の学術集会で積み重ねられた実績を引き継ぐことに変な重責を感じております。

メインテーマの「養護教諭が養護教諭であるために」は、これまでの本会が果たしてきた役割と成果をもとに、改めて養護教諭の専門性を支える研究能力や実践力を、今一度原点にもどって見つめてみようという思いで掲げました。

特別講演は十勝沖地震による津波で大被害を受けた道東の町で、地域の人々の健康を支え続けた医師の道下俊一先生に地域とのかかわりについて、また、教育講演は今最も注目されている特別支援教育と養護教諭のかかわりについて、飯野順子先生にお話ししていただく予定です。

ワークショップでは参加者が交流できる3つの課題(ケースメソッド、インシデント・プロセス等)を企画しております。

また、会員の皆様方に本学会を有効に活用していただくために、学会員の企画による自由集会、自主シンポ等の開催を予定しております。10月6日の午前と7日の学会終了後の時間帯を用意しますので、ご希望の方は学術集会事務局までお問い合わせ下さい。

さらに、昨年同様に託児室を用意しておりますのでご利用の方はHPをご覧ください。

全国の会員の皆様方のご参加とご協力を心からお待ち申し上げます。



第15回 学術集会(北海道)のご案内 ー第2報ー

1. 期日：2007年10月6日(土)
13時～17時20分
10月7日(日)
9時20分～16時40分
2. 会場：北方圏学術情報センター「ポルト」
札幌市中央区南1条西22丁目
3. メインテーマ
「養護教諭が養護教諭であるために」
4. 内容
☆1日目(13時～17時20分)
 - 1) 特別講演
「津波が変えた私の人生 地域とのかかわり」：道下俊一(元浜中診療所長)
 - 2) シンポジウム
「養護教諭であることの探究ー専門性を生かした養護実践のこれからを問うー」：座長 後藤ひとみ(理事長・愛知教育大学)☆2日目(9時20分～16時40分)
 - 1) 教育講演
「特別支援教育からみた養護教諭の専門性(仮)」：飯野順子(元筑波大学附属盲学校長)
 - 2) ワークショップ
・ケースメソッド：岡田加奈子(千葉大学)
・インシデント・プロセス：今野洋子(北翔大学)他
 - 3) 一般口演
 - 4) ポスターセッション
 - 5) 学会助成研究発表
・保健学習の実践から見た養護活動
・養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討
 - 6) 総会
 - 7) ランチョンセミナー
「小児のメタボリックシンドローム(仮)」

5. 研究発表及び参加

- 1) 発表者及び共同研究者は、本学会の会員に限ります。(手続きは学会事務局まで)
- 2) 演題申込み締切り
2007年7月6日(金) 必着
希望者は同封の申込み用紙で送付して下さい(HPにもあり。FAXも可)。
- 3) 抄録原稿締切り
2007年7月27日(金) 必着
演題受理後、原稿作成要項を送ります。
- 4) 宛先
〒069-8511 江別市文京台23番地
北翔大学人間福祉学部
第15回学術集會事務局 今野洋子
FAX 番号: 011-387-3983
E-mail: imalyn@hokusho-u.ac.jp
ホームページによる申込は「日本養護教諭教育学会公式HP」よりお入り下さい。
- 5) 参加費
同封の振込み用紙でお送り下さい。
- 6) 宿泊
同封の宿泊申込み用紙をご利用下さい。

〇〇〇 トピックス 〇〇〇

教員養成改革のきっかけになるか

—教職大学院構想—

高橋 香代(岡山大学)

国立の教員養成系大学では今、平成20年度教職大学院設置にむけて申請準備でおおわらわの大学もあると思います。国立では20校程度が何らかの準備をしているようですが、平成20年度の設置が認められる大学は10校程度ということで、どの大学に設置されるかが注目を集めています。

そもそも我が国に、高度専門職業人養成に特化した専門職大学院制度が創設されたのは、平成15年3月でした。その後、法科大学院、公共政策大学院、公衆衛生大学院等の専門職大学院が設置されました。法科大学院は、全国に雨後の筍のように設置されました

が、新司法試験の合格率等の事後評価が始まれば潰れる大学院も出るのではないのでしょうか。

教職大学院構想は、平成16年8月に当時の河村文部科学大臣が「義務教育の改革案」を掲げ、教員の資質向上に、教員養成のための専門職大学院を設置して大学院レベルで高度かつ実践的な教員養成を行うとしたことに始まります。平成18年7月中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」で、学部段階の教職課程の見直しとともに、専門職大学院制度を活用した教員養成教育の改善・充実を図ることの必要性が提言され、平成19年3月に設置基準が発表されました。

中教審答申では、「今後の教員養成の在り方としては、大学院段階で、現職教員の再教育も含め、特定分野に関する深い学問的知識・能力を有する教員や、教職としての高度の実践力・応用力を備えた教員を幅広く養成していくことが重要である」が、「大学院段階における教員養成については、我が国の大学院制度が研究者養成と高度専門職業人養成との機能区分を曖昧にしてきたこともあり、また実体面でも高度専門職業人養成の役割を果たす展開が不十分であったことから、教員養成分野でも、とすれば個別分野の学問的知識・能力の育成が過度に重視される一方、学校現場での実践力・応用力など教職としての高度の専門性の育成がおろそかになっており本来期待された機能を十分に果たしていない」と指摘されています。

教職大学院構想について、私も文部科学省の専門教育課に何度か相談にいきました。その時の話では、教職大学院設置はそれだけの問題ではなく、学部段階の教員養成をどうするのか、既設修士課程の教育はどうするのかを含んだ3点セットで考えるべきものであり、つまりそれぞれの大学における教員養成全体が問われるということでした。しかも専門職大学院として事後評価にも晒されるわけで、かなりハードルは高いと感じました。

しかし、いわゆる「在り方懇」で示された地方国立大学教育学部の統廃合は済んでしまった話ではないようです。また、今年の2月、政府の経済財政諮問会議の民間議員から、大学再編を視野に入れて選択と集中を促す運営費交付金の配分ルールも提案されていて、教員養成大学の10年後は厳しいと思います。教職大学院の設置云々だけではなく、学部・大学院を通じた教員養成のあり方を真摯に見直すべき時であると考えています。

特別企画 私の県の「ここが特色」④

総合教育センターを拠点に 養護教諭の研修

—若手養護教諭の育成を中心とした取組—

市木美知子

(京都市総合教育センター)

京都市総合教育センター3階のカリキュラム開発センターには養護教諭対象の書架があり、専門の図書や資料、現場の優秀な指導案等が整えられています。加えて、地階には養護研修室が設置され、保健室の備品や参考資料が整えられ、ここを拠点にして養護教諭の研修を実施しています。

(1) 常勤講師の研修

正規採用でない講師の中には定数内講師及び育休等の代替講師がいます。これらの講師を対象に18:00~21:00、年間6回の研修を実施しています。主な内容は専門分野の「保健管理」「保健教育」「救急処置」「健康相談活動」等と他の教員と共通の「人権教育」「総合育成教育」等です。ほとんどの人が正規採用を目指し、熱気にあふれています。

(2) 養護教諭自主学習会

総合教育センターは若手教員育成の一環として自主的に立ち上げたグループ学習会を支援します。現在養護教諭の関係では「健康相談活動自主学習会」を立ち上げ、

講義や演習・事例検討を通して力量アップに努めています。18:00~21:00、年間8回実施しています。

(3) 教師塾

教員を目指す大学生、社会人を対象に「京都教師塾」が開設され、養護教諭志望者も通塾しています。大学で身につけた専門知識を基盤として本市の教育現場に触れて養護教諭としての資質や指導力に一層磨きをかけることを目標にしています。

紙面の都合で、若手養護教諭の育成だけに絞って述べますが、当総合教育センターが全市養護教諭の研究・研修活動の拠点となっています。

京都府立学校養護教諭研究会の活動

永山ひとみ

(京都府立加悦谷高等学校)

京都府立学校養護教諭研究会は、「心身の豊かな発達を目指し、健康で安全な生活を営むたくましい実践力をもつ生徒を育てる」を研究目標とし、3つの支部で活動している。盲・聾・養護学校支部と、京都府立高等学校を南北に分けた市内支部、両丹支部で構成され、会員数は101名である。

☆班別研究(各支部ごと)

年間4回の研究会の中で、数班に分かれて研究テーマを持って取り組んでいる。昨年度の全日制班では、「来室記録から校内連携の方法を検討する。」をテーマに研究をすすめた。

☆夏季研修会(各支部ごと)

夏季休業中に、講演会を中心に実施する。講師との研究協議なども行う。

☆総会並びに研修会

夏季休業中に本部役員を中心に準備・運営を行っている。各支部ごとの事業報告や、研究発表の交流、講演会などを行う。年1回全会員が集まる場として、各支部や各会員の交流等が期待されている。

このような内容で、本部役員4名と各支部

からの8名の役員が中心になって活動している。年度末には、各支部ごとでまとめを行い、一冊の「あゆみ」に仕上げる。「あゆみ」には、各支部の活動をはじめ各班別研究のまとめや各会員の1年間の取組等がまとめられている。「あゆみ」を活用することによって、各会員が学びを共有し、日々の職務に活かされている。

◇◇◇ 新・特別企画 ◇◇◇

「私の実践と研究」リレー・レポート② —養護教諭が行う特別支援教育—

大家さとみ

(佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校)

22年の間に県立学校(主に高等学校)を4校異動した。特に、前任校の佐賀東高等学校(30学級1,200名の大規模校・複数配置)では「薬物乱用防止教育」や「ピアサポートを取り入れた性教育」に精力的に取り組み、研究発表や論文にまとめる機会を得た。

さらに実践を深めようと意気込んでいた4年前の平成15年4月に、想定外の現任校に異動した。「特殊教育」が「特別支援教育」に転換し、教育や福祉に関する法律等が矢継ぎ早に出され、大きな転換期を迎えていた。初めて養護学校に勤務した私は日々とまどいながら、発達障害や知的障害の児童生徒の保健管理や保健指導を手探りで進めていった。そして、3年間の実践をまとめ、昨年度から少しずつ発信を始めている。

「養護教諭が行う特別支援教育(特別支援学校の実践)」

- ①危機管理(個々の情報の収集と発信および緊急連絡体制の確立)の充実
- ②健康診断の視覚的構造
- ③保健室の環境づくり(構造化)
- ④特性を理解した保健指導
- ⑤児童生徒および保護者の健康相談活動
- ⑥医療・福祉・労働等専門機関との連携

重複障害や疾病を併せ有する児童生徒が多い特別支援学校では、まず児童生徒の特性を理解し、校内及び保護者、専門機関と連携していくことが大切である。また、大学附属学校として研究的視点で実践を行い、発信していくことも求められる。評価を重ね、より良い実践を日々模索している。

※大学附属養護学校は、平成19年4月より「特別支援学校」に校名変更された。

● 研究助成金研究の経過報告② ●

保健学習の実践から見た養護活動

小口 博子

(茨城県立水海道第一高等学校)

中島 栄子

(茨城県立水海道第二高等学校)

本研究では、養護教諭が保健学習を行うことによって日々の養護活動の内容にどういった変化があったかを明らかにすることを主な目的としている。そのために2つのアンケート調査を実施した。

①県内外の兼務発令を受けている11名の高校の養護教諭の先生方に、保健学習の形態、他の教員や生徒との関係の変化、また、養護教諭の仕事にプラスになったこと、マイナスになったことなどについて回答を得た。

②2つの高校の生徒たち対象に保健の授業に対する評価を求めるアンケートを実施した。大まかな結果は以下の通りである。

①についてはほとんどの先生方が保健学習の実践のプラスの効果をあげられていた。また、「忙しくなった」という答えも多かった。

②については、保健学習を取り組むにあたって養護教諭ならではのものにしようとすると思われ、保健指導の意味合いが強くなると思われる。しかしながら、生徒たちのとらえ方はあくまで教科指導であるという認識が強かったり、逆に自分の健康問題の解決の場であるととらえていたり様々であった。

詳細については現在分析を進めている。

については、会則実施細則第11条(1)において「研究の決定にあたっては、あらかじめ希望者を機関紙で公募し、理事会において審議し、総会で承認を受ける。」と定めています。

この規程に則って2007年度の募集も例年通りに行いました。しかし、〆切までに応募がなかったことから、昨年の総会では「3月まで〆切を延長し、理事会で選定して、ハーモニーで報告すること」をご承認いただきました。結果として、4件の申請があり、2件を採択しましたことは前欄にて報告したとおりです。

理事会では2008年度の募集についても例年の申請時期を変更し、2007年度に準じた流れで進めていきたいと考えています。これに伴う実施細則等の改正については別途提案し、今後も研究助成事業の充実にむけて努力してまいりますので、何卒、ご理解とご協力の程をお願い申し上げます。

学会誌第11巻第1号投稿原稿の募集

「日本養護教諭教育学会誌」第11巻第1号の原稿を募集しています。

養護教諭の実践、養成教育や現職教育に関する調査などを研究論文にまとめて投稿してみませんか？学会誌上で会員が相互に研究成果を交換し合い、それを実践で検証し、さらなる研究と積み重ねによって、より質の高い養護教諭のあり方を追求していけたらと思っています。積極的な投稿をお待ちしています。

- 投稿資格：本学会の会員に限ります。
- 原稿の種類：論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。
- 募集期間：年間を通して受け付けていますが、第11巻第1号の原稿の最終締め切りは、2007年10月1日(月)です。
- 投稿方法：A4判横書きで3部(内2部は査読用なので、著者名、所属を記入していないもの)を作成し、編集委員会事務局に

送付してください。原稿枚数や執筆要項等については、学会誌第10巻第1号に掲載の「日本養護教諭教育学会誌投稿規定」、「日本養護教諭教育学会誌への論文投稿のしかた」、または学会HPをご覧ください。

- 問い合わせ先：ご不明な点がありましたら、編集委員会事務局にお問い合わせください。

なお、査読が終了し受理された論文から掲載しますので、早めに投稿されることをお勧めします。また、受理までに長期間を要する場合は、第11巻以降の掲載になる場合があることを、念のために申し添えます。

<編集委員会事務局>

〒238-8528 横須賀市平成町1-10-1
神奈川県立保健福祉大学看護学科
竹田研究室

◆「読者の声」募集◆

ハーモニーの紙面に会員の皆様の声を広く反映させていきたいと思えます。「読者の声」の原稿を募集いたします。

学会事務局のハーモニー担当までお寄せください。アドレスは以下のとおりです。

JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

理事会等の活動報告

2006年7月以降の理事会等の活動は次の通りです。

☆理事会

1. 2006年度 第2回

日時：2006年7月22日(土) 10:00~17:00
場所：東横イン名古屋丸の内(名古屋市)
出席者：理事9名(鎌田、後藤、斉藤、鈴木薫、鈴木裕子、高橋、竹田、徳山、山崎)
内容：各担当理事の活動計画、事務局体制、2006年度会計中間報告、研究助成金研究の選定方法と基準、役員の選出方法、第14回学術集会の企画と運営、2006年度総会準備等

2. 2006年度 第3回

日 時：2006年10月7日(土) 16:30~20:00

場 所：愛知教育大学(刈谷市)

出席者：理事7名(欠席：高橋、徳山)

内 容：2006年度総会の運営及び議案確認等

3. 2006年度 第4回

日 時：2007年1月8日(月/祝) 10:00~14:00

場 所：横浜市健康福祉総合センター(横浜市)

出席者：理事7名(欠席：鎌田、高橋)

内 容：2006年度総会及び第14回学術集会の総括、2006年度事業の経過報告、「養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト」の報告等

4. 2007年度 第1回

日 時：2007年4月22日(日) 10:00~16:30

場 所：名古屋市公会堂(名古屋市)

出席者：理事8名(欠席：高橋)

内 容：2006年度事業の総括と会計報告、第15回学術集会進捗状況、2007年度研究助成金研究の選定、2007年度事業計画等

中根)

内 容：日本養護教諭教育学会誌第10巻第1号の編集日程、ハーモニー第42号の企画等

3. 2006年度 第3回

日 時：2006年1月7日(日) 10:00~18:00

場 所：横浜市健康福祉総合センター(横浜市)

出席者：後藤、斉藤、鈴木、竹田、田嶋、中根、中川、山崎(欠席：木幡、高橋)

内 容：日本養護教諭教育学会誌第10巻第1号の査読状況確認と編集作業、学会誌発行までの予定、ハーモニー第42号発行の準備状況等

4. 2007年度 第1回

日 時：2007年4月21日(土) 10:00~16:30

場 所：名古屋市公会堂(名古屋市)

出席者：後藤、斉藤、鈴木、高橋、竹田、田嶋、中根、山崎(欠席：木幡、中川)

内 容：学会誌第10巻第1号の発行報告、2006年度事業の総括と2007年度事業計画、ハーモニー第43号の企画等

☆編集委員会

1. 2006年度 第1回

日 時：2006年7月22日(土) 9:00~10:00

場 所：東横イン名古屋丸の内(名古屋市)

出席者：後藤、斉藤、鈴木、高橋、竹田、山崎(会員からの委員は委嘱中)

内 容：2005年度学会誌編集決算報告と2006年度学会誌編集予算案、2006年度編集委員会業務と役割分担、投稿規程の改正(案)、日本養護教諭教育学会誌第10巻第1号の企画、ハーモニー第41号の企画等

2. 2006年度 第2回

日 時：2006年10月8日(日) 9:30~12:00

場 所：名古屋国際会議場(名古屋市)

出席者：後藤、斉藤、鈴木、竹田、田嶋、山崎(欠席：木幡、高橋、中川、

事務局より

2007年度の年会費納入期です。ご多用の折と思いますが、よろしくお願いたします。また、ハーモニー・学会誌の「送付先住所」に変更がある方は、事務局までご連絡ください。

編集後記

校正上の都合によって6月初旬の発行となり、お待たせしてしまいました。

今回は、学術集会のプログラムをお送りしますので時期厳守にて進めたいと思います。

第15回学術集会は、秋の北海道です。美味しいものをいただきながら、脳と心と体をリフレッシュしたいものです。(F)